

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(国際コミュニケーション学科(昼間部)2年制)

科目区分	分類	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	必修	表現力	80	○	80			
実習	必修		80	○	80			
講義	必修	異文化コミュニケーション	160	○	160			
講義	必修	日本文化芸能論	80	○	80			
講義	必修	グローバル時事・経済	80	○	80			
講義	必修	グローバル経営・マーケティング	80	○	80			
実習	必修	マナートレーニング	160	○	160	★	80	1年次80時間
講義	必修	プロジェクトチームワーク	80	○	80			
実習	必修		80	○	80			
講義	必修	文章表現	80	○	80			
実習	必修		80	○	80			
講義	必修	IT情報リテラシー	80	○	80			
講義	必修	ビジネス検定対策	80	○	80			
実習	必修	サービス接客スキルアップ	80	○	80			
実習	必修	面接対策	80	○	80			
講義	選択	グローバルコミュニケーション英語	160	○	160	★	80	1年次80時間
講義	選択	TOEIC	160	○	160			
講義	選択	BJT	160					
講義	選択	プレゼンテーション	160	○	160			
講義	選択	SPI	160	○	160			
講義	選択	通訳翻訳基礎	160					
講義	選択	TOEFL	160					
講義	選択	一般教養 政治・経済	160	○	160			
講義	選択	一般教養 地理・歴史	160	○	160			
講義	選択	一般教養 数学	160					
講義	選択	一般教養 英語	160	○	160			
講義	選択	国連英検対策	160					
講義	選択	全国通訳案内士対策	160					
総授業時数			2,160		2,160		160	
卒業に必要な授業時数(学則)			2,160					

※ 選択科目は少なくとも5科目選択し、履修するものとする。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	表現力	アルサーテクルツ麗	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
相手に配慮しながら詳しい説明や描写、意見や説得や助言、交渉などができる。 単なる伝達でなく、相手との関係を維持しながら、場面や話題に応じた話し方や進め方ができる。			
【講義概要】			
進学後、就職後を見据え、特に伝える力を引き上げる。 相手に与える印象や丁寧さを意識し、場面に合わせた表現や自分の考えや気持ちの伝え方を実践的に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション伝えることと表現とは	16	文化行事の紹介 I 1
2	印象に残る自己紹介 I	17	文化行事の紹介 I 2
3	はじめたきっかけを語る I	18	困った状況の解決 I 1
4	失敗体験談 I	19	困った状況の解決 I 2
5	好きな町の様子を伝える I	20	悩みや不満の相談対応 I 1
6	動作の順序の説明 I	21	悩みや不満の相談対応 I 2
7	スポーツの魅力を伝える I	22	グラフや表の説明 I 1
8	言い換えテクニック I 1	23	グラフや表の説明 I 2
9	言い換えテクニック I 2	24	制度の説明 I 1
10	比べて良さを伝える I	25	制度の説明 I 2
11	好きな物語のあらすじ I	26	社会問題について語る I
12	最近の出来事で会話を続ける I	27	ディベート I 1
13	健康について話し合う I	28	ディベート I 2
14	将来の夢を語る I 1	29	期末テスト
15	将来の夢を語る I 2	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は講義と実習形式で行い、各回発表やグループワークを行う。 担当教員は企業において新規事業開発、営業事務、貿易事務等を経験。 これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	表現力	アルサーテクルツ麗	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
相手に配慮しながら詳しい説明や描写、意見や説得や助言、交渉などができる。 単なる伝達でなく、相手との関係を維持しながら、場面や話題に応じた話し方や進め方ができる。			
【講義概要】			
進学後、就職後を見据え、特に伝える力を引き上げる。 相手に与える印象や丁寧さを意識し、場面に合わせた表現や自分の考えや気持ちの伝え方を実践的に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション伝えることと表現とは	16	文化行事の紹介 I 1 [発表]
2	印象に残る自己紹介 I [発表]	17	文化行事の紹介 I 2 [発表]
3	はじめたきっかけを語る I [発表]	18	困った状況の解決 I 1 [グループワーク]
4	失敗体験談 I [発表]	19	困った状況の解決 I 2 [グループワーク]
5	好きな町の様子を伝える I [発表]	20	悩みや不満の相談対応 I 1 [グループワーク]
6	動作の順序の説明 I [発表]	21	悩みや不満の相談対応 I 2 [グループワーク]
7	スポーツの魅力を伝える I [発表]	22	グラフや表の説明 I 1 [発表]
8	言い換えテクニック I 1 [発表]	23	グラフや表の説明 I 2 [グループワーク]
9	言い換えテクニック I 2 [発表]	24	制度の説明 I 1 [グループワーク]
10	比べて良さを伝える I [発表]	25	制度の説明 I 2 [グループワーク]
11	好きな物語のあらすじ I [発表]	26	社会問題について語る I [発表]
12	最近の出来事で会話を続ける I [発表]	27	ディベート I 1 [グループワーク]
13	健康について話し合う I [グループワーク]	28	ディベート I 2 [グループワーク]
14	将来の夢を語る I 1 [グループワーク]	29	期末テスト
15	将来の夢を語る I 2 [グループワーク]	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は講義と実習形式で行い、各回発表やグループワークを行う。 担当教員は企業において新規事業開発、営業事務、貿易事務等を経験。 これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	表現力	孟信和	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、相手との関係を維持しながら詳しい説明や意見や交渉などができる。 実践的に、場面や話題に応じた話し方や進め方ができる。			
【講義概要】			
進学後、就職後を見据え、伝える力を身につける。 相手に与える印象や丁寧さを意識し、場面に合わせた表現や自分の考えや気持ちの伝え方を実践的に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション伝えることと表現とは	16	文化行事の紹介Ⅱ1
2	印象に残る自己紹介Ⅱ	17	文化行事の紹介Ⅱ2
3	はじめたきっかけを語るⅡ	18	困った状況の解決Ⅱ1
4	失敗体験談Ⅱ	19	困った状況の解決Ⅱ2
5	好きな町の様子を伝えるⅡ	20	悩みや不満の相談対応Ⅱ1
6	動作の順序の説明Ⅱ	21	悩みや不満の相談対応Ⅱ2
7	スポーツの魅力を伝えるⅡ	22	グラフや表の説明Ⅱ1
8	言い換えテクニックⅡ1	23	グラフや表の説明Ⅱ2
9	言い換えテクニックⅡ2	24	制度の説明Ⅱ1
10	比べて良さを伝えるⅡ	25	制度の説明Ⅱ2
11	好きな物語のあらすじⅡ	26	社会問題について語るⅡ
12	最近の出来事で会話を続けるⅡ	27	ディベートⅡ1
13	健康について話し合うⅡ	28	ディベートⅡ2
14	将来の夢を語るⅡ1	29	期末テスト
15	将来の夢を語るⅡ2	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は講義と実習形式で行い、各回発表やグループワークを行う。 担当教員は日本生まれの韓国語バイリンガル。21年間の韓国ソウル在住中には大学や大企業の語学研修院にて日本語を教える傍ら、ラジオ局のフリーアナウンサーの経歴もあり、さらに、米国大学院において日本語教授法研修コース修了、及び、Tutorも経験。帰国後は大学にて韓国語も教えるようになり、語学教育歴は30年以上になる。 海外・日本での実務経験を活かし授業を展開。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	表現力	孟信和	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、相手との関係を維持しながら詳しい説明や意見や交渉などができる。 実践的に、場面や話題に応じた話し方や進め方ができる。			
【講義概要】			
進学後、就職後を見据え、伝える力を身につける。 相手に与える印象や丁寧さを意識し、場面に合わせた表現や自分の考えや気持ちの伝え方を実践的に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション伝えることと表現とは	16	文化行事の紹介Ⅱ1〔発表〕
2	印象に残る自己紹介Ⅱ〔発表〕	17	文化行事の紹介Ⅱ2〔発表〕
3	はじめたきっかけを語るⅡ〔発表〕	18	困った状況の解決Ⅱ1〔グループワーク〕
4	失敗体験談Ⅱ〔発表〕	19	困った状況の解決Ⅱ2〔グループワーク〕
5	好きな町の様子を伝えるⅡ〔発表〕	20	悩みや不満の相談対応Ⅱ1〔グループワーク〕
6	動作の順序の説明Ⅱ〔発表〕	21	悩みや不満の相談対応Ⅱ2〔グループワーク〕
7	スポーツの魅力を伝えるⅡ〔発表〕	22	グラフや表の説明Ⅱ1〔発表〕
8	言い換えテクニックⅡ1〔発表〕	23	グラフや表の説明Ⅱ2〔グループワーク〕
9	言い換えテクニックⅡ2〔発表〕	24	制度の説明Ⅱ1〔グループワーク〕
10	比べて良さを伝えるⅡ〔発表〕	25	制度の説明Ⅱ2〔グループワーク〕
11	好きな物語のあらすじⅡ〔発表〕	26	社会問題について語るⅡ〔発表〕
12	最近の出来事で会話を続けるⅡ〔発表〕	27	ディベートⅡ1〔グループワーク〕
13	健康について話し合うⅡ〔グループワーク〕	28	ディベートⅡ2〔グループワーク〕
14	将来の夢を語るⅡ1〔グループワーク〕	29	期末テスト
15	将来の夢を語るⅡ2〔グループワーク〕	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義と実習形式で行い、各回発表やグループワークを行う。</p> <p>担当教員は日本生まれの韓国語バイリンガル。21年間の韓国ソウル在住中には大学や大企業の語学研修院にて日本語を教える傍ら、ラジオ局のフリーアナウンサーの経歴もあり、さらに、米国大学院において日本語教授法研修コース修了、及び、Tutorも経験。帰国後は大学にて韓国語も教えるようになり、語学教育歴は30年以上になる。海外・日本での実務経験を活かし授業を展開。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	異文化コミュニケーション	平松明子	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、現代のグローバル社会において、異文化に対する感受性と他者への共感性を高め、より、バランスの取れた異文化コミュニケーション能力を身につける。			
【講義概要】			
異文化理解やコミュニケーションの方法について、調査やディスカッションやケーススタディなどを行いながら、実践的に学び、理解を深める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	異文化ケーススタディ1
2	文化の違いについて ほめ方1	17	異文化ケーススタディ2
3	文化の違いについて ほめ方2	18	異文化ケーススタディ3
4	文化の違いについて 叱り方1	19	異文化ケーススタディ4
5	文化の違いについて 叱り方2	20	ケーススタディ まとめ
6	文化の違いについて 謝り方1	21	異文化ディスカッション1
7	文化の違いについて 謝り方2	22	異文化ディスカッション2
8	文化の違いについて 誘い方と断り方1	23	異文化ディスカッション3
9	文化の違いについて 誘い方と断り方2	24	異文化ディスカッション4
10	非言語コミュニケーション1	25	ディスカッション まとめ
11	非言語コミュニケーション2	26	異文化調査3
12	異文化調査1	27	異文化調査4
13	異文化調査2	28	調査発表準備
14	調査発表準備	29	調査発表2
15	調査発表1	30	期末テスト
		31	総まとめ、フィードバック
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
異文化コミュニケーションの観点から日本の文化・習慣の様々なトピックをディスカッション形式で学ぶ。			
担当教員は、東南アジア・中国・ヨーロッパ諸国・米国・南米・中東諸国で自然環境保護及び地域開発プロジェクトにおける実務経験があり、経験を活かし授業を展開する。また特に環境保護及び先住民族問題については著書もある。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	異文化コミュニケーション	田中真奈美、深山敏郎 二階堂幸弘、岡田麻唯	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
現代のグローバル社会において、異文化に対する感受性と他者への共感性を高め、バランスの取れた異文化コミュニケーション能力を身につける。			
【講義概要】			
異文化コミュニケーションに関する諸問題を多面的に捉え、その解決のための方法について考える。			
回	授業計画及び学習の内容		
1 オリエンテーション	16 春期の振り返り		
2 異文化コミュニケーションとは①	17 異文化コミュニケーションと国際社会(2)環境問題		
3 異文化コミュニケーションとは②	18 異文化コミュニケーションと国際社会(3)ジェンダー		
4 言語コミュニケーション	19 国際常識としてのシェイクスピア入門①喜劇		
5 非言語コミュニケーション	20 国際常識としてのシェイクスピア入門②歴史劇、悲劇		
6 自己を知る①	21 国際常識としてのシェイクスピア入門③その他の劇		
7 自己を知る②	22 異文化理解①		
8 カントリースタディ(1)スイス	23 異文化理解②		
9 カントリースタディ(2)イラン・クウェート	24 カルチャーショックと異文化適応		
10 カントリースタディ(3)ブルガリア	25 異文化シミュレーション「火星での災難」①		
11 異文化と思い込み ゲシュタルト心理学の観点から	26 異文化シミュレーション「火星での災難」②		
12 ゲーム: 思い込みの排除(地図作成ゲーム)	27 異文化シミュレーション「火星での災難」③		
13 異文化コミュニケーション・カントリースタディ(5)アメリカ	28 異文化シミュレーション「火星での災難」④		
14 異文化コミュニケーションと国際社会(1)SDGs	29 日本企業と外資系・海外企業の違いの理解と適応①		
15 春学期のまとめ	30 日本企業と外資系・海外企業の違いの理解と適応①		
	31 異文化コミュニケーションと国際社会(4)宗教・人種		
【成績評価方法】			
授業参加40%、創造性、フィードバックシート、小テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
異文化コミュニケーションを体験するグループワークやグループディスカッションなども行う。 担当教員は企業、大学で異文化コミュニケーションを教える専門家と、外務省で実務経験を積んだ専門家であり、各担当は、これまでの実務経験に基づいて、授業をオムニバス形式で展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	日本文化芸能論	廣光恵	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>伝統から現在までの文化や美術、芸能について学びながら、日本人の価値観や行動心理、日本社会の成り立ちや現実社会のあり方について考えることができるようになる。</p>			
【講義概要】			
<p>日本文化芸能を代表する作品を鑑賞することを通じて、現実社会との関係性を学び、それらを通じて現実社会のあり方を考える。また、現実のプロトタイプとして、フィクションをいかに活用していくか、その方策を学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	伝統文化と現代社会 社会構造1
2	世界から見る日本の文化芸能1	17	伝統文化と現代社会 社会構造2
3	世界から見る日本の文化芸能2	18	伝統文化と現代社会 社会構造3
4	フィクションとノンフィクションについて1	19	伝統文化と現代社会 社会構造4
5	フィクションとノンフィクションについて2	20	リサーチⅢ
6	フィクションとノンフィクションについて3	21	リサーチグループ発表1
7	リサーチⅠ	22	リサーチグループ発表2
8	リサーチ個人発表1	23	伝統文化と現代社会 日本人の習慣と行動1
9	リサーチ個人発表2	24	伝統文化と現代社会 日本人の習慣と行動2
10	日本社会をシュミレーションするフィクションについて1	25	伝統文化と現代社会 日本人の習慣と行動3
11	日本社会をシュミレーションするフィクションについて2	26	リサーチⅣ
12	日本社会をシュミレーションするフィクションについて3	27	リサーチグループ発表3
13	リサーチⅡ	28	リサーチグループ発表4
14	リサーチ個人発表3	29	期末テスト
15	リサーチ個人発表4	30	総まとめ
【成績評価方法】			
<p>授業参加40%、各回の課題及び期末レポートによる総合的な評価60%</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義のほか、学外でのリサーチ等も行う 講師は、海外留学と勤務の経験を持つ。海外機関での、異文化コミュニケーションや日本の社会文化に関するプレゼンテーションの経験をもとに、授業を行う。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	日本文化芸能論	市原光敏	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、伝統から現在までの文化や美術、芸能について学びながら、日本人の価値観や行動心理、日本社会の成り立ちや現実社会のあり方についてより深く考えることができるようになる。			
【講義概要】			
主に、アニメーション作品とその作り手、そしてそれぞれの作品が作られた社会的な背景を理解することで、現代日本社会の推移を把握し、より深く日本・日本文化芸能を理解する力を養う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	90年代のアニメの影響1
2	世界から見る日本のアニメーション1	17	90年代のアニメの影響2
3	世界から見る日本のアニメーション2	18	90年代のアニメの影響3
4	世界から見る日本のアニメーション3	19	90年代のアニメの影響4
5	リサーチⅠ	20	リサーチⅣ
6	日本の自然観とアニメーション1	21	ゼロ年代日本文化とアニメーション1
7	日本の自然観とアニメーション2	22	ゼロ年代日本文化とアニメーション2
8	日本の自然観とアニメーション3	23	ゼロ年代日本文化とアニメーション3
9	日本の自然観とアニメーション4	24	ゼロ年代日本文化とアニメーション4
10	リサーチⅡ	25	リサーチⅤ
11	ロボットアニメから見える日本社会1	26	日本の国民的アニメと社会1
12	ロボットアニメから見える日本社会2	27	日本の国民的アニメと社会2
13	ロボットアニメから見える日本社会3	28	日本の国民的アニメと社会3
14	ロボットアニメから見える日本社会4	29	期末テスト
15	リサーチⅢ	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、各回の課題及び期末レポートによる総合的な評価60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は講義のほか、学外でのリサーチ等も行う。担当教員は(株)九州朝日放送の元アナウンサーであり、アニメ・声優業界での学校運営及び教員としての長年の経験を活かし、親しみやすいアニメを通して日本文化芸能を修得する。これらの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバル時事・経済	柳沼 壽	2単位／40時間

【授業の到達目標及びテーマ】

マクロ経済の理解に必要な基本的概念と、経済活動のグローバル化に伴う現象を専門用語で説明できる。

経済学・経営学における基本的概念を説明できる。

様々な企業戦略やグローバル経営などを専門用語で説明できる。

【講義概要】

近年、世界各国の経済の相互依存関係が著しく進展を見据え、貿易や直接投資等がもたらす様々な経済的効果を議論する。貧困・エネルギー・地球環境問題等世界が取り組むべき重要課題についても取り上げる。経済活動のグローバル化を考え、グローバル化が進む国のマクロ経済を概観する。そして、経済学における企業行動の考え方を学び、経営学の視点から、経営・マーケティング戦略、グローバル経営、イノベーション、等を事例を交えて考察する。

回 授業計画及び学習の内容

1	イントロダクション	16	アメリカ・ヨーロッパの経済
2	国際経済を見る眼 経済の国際化、リージョナル化	17	アジアNIES、ASEAN、中国の経済
3	国際貿易-1- 国債貿易の利益	18	市場と競争 市場の均衡、経済厚生
4	国際貿易-2- 保護貿易、貿易と新興国経済	19	競争と戦略 ゲーム理論、ナッシュ均衡
5	国際金融-1- 国際金融取引、為替レートの決定	20	企業目的と成果 企業目的、所有者
6	国際金融-2- 欧州通貨統合、IMF	21	会社制度と経営 ソニーの例
7	経済統合 経済統合の歴史	22	経営戦略の策定 競争優位と戦略
8	貧困と開発 貧困の定義、貧困の現状と対策	23	生産の戦略 カンバン方式、新戦略
9	人口と食糧 人口問題と食糧安全保障	24	人的資源戦略 競争優位と人事戦略
10	資源とエネルギー-1- 将来のエネルギー源	25	財務戦略 資本コスト、資本構成
11	資源とエネルギー-2- エネルギー政策	26	コーポレートガバナンス 内部・外部統治
12	地球環境問題-1- 国際的な温暖化対策	27	グローバル経営 優位性/ライフサイクル
13	地球環境問題-2- 社会的共通資本	28	イノベーションとベンチャー 起業支援
14	マクロ経済学基礎 GDP、マクロ経済の均衡	29	経営倫理 社会的存在としての企業
15	日本のマクロ経済 低成長、低インフレ、アベノミクス	30	全員経営 知識創造モデル、事例

【成績評価方法】

小テスト3回(60%)、最終レポート(30%)、課題提出(10%)

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループディスカッションなどを行う。

担当教員は日本開発銀行(現日本政策投資銀行)などで役職を歴任し、企業向けの研修や講演なども数多く手がけている。これらの実務経験に基づいて授業を展開する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバル時事・経済	柳沼 壽	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
経済取引および企業活動のグローバル化に伴う様々な現象を、英語を通して理解できる。			
【講義概要】			
近年の経済取引や企業活動のグローバル化をグローバルコミュニケーションのスタンダードである英語を通して学んでいく。企業の戦略行動や市場競争に関するミクロ経済学と景気変動・国際貿易等のマクロ経済学を復習しつつ、組織・マーケティング等の経営学的知識の概念も使い、グローバルな経済取引と企業活動を英語によって学んでいく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1 Introduction	16 Market structure and competition①		
2 Management①	17 Market structure and competition②		
3 Management②	18 The business cycle①		
4 Management③	19 The business cycle②		
5 Work and Motivation①	20 The business cycle③		
6 Work and Motivation②	21 Intermediate Exam.		
7 Work and Motivation③	22 Corporate social responsibility①		
8 Intermediate Exam.	23 Corporate social responsibility②		
9 Company structure①	24 Exchange rates①		
10 Company structure②	25 Exchange rates②		
11 Company structure③	26 International trade①		
12 Managing across cultures①	27 International trade②		
13 Managing across cultures②	28 Economics and ecology①		
14 Managing across cultures③	29 Economics and ecology②		
15 1st term Ex.	30 2nd term EX.		
【成績評価方法】			
小テスト3回(60%)、最終レポート(30%)、課題提出(10%)			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループディスカッションなどを行う。 担当教員は日本開発銀行(現日本政策投資銀行)などで役職を歴任し、企業向けの研修や講演なども数多く手がけている。これらの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバル経営・マーケティング	古野和夫	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>これからの社会変化の大きな流れを掴む。 新たな事業を創造する際に必要なステップがわかる。</p>			
【講義概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの基本的な知識、企業について知る。 ・マーケティングの基本的な考えを学ぶ。 ・アイデアの立案、検証、リサーチを行い、提案書を作成する。 			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	外的環境の分析3
2	マーケティングの基本とは1	17	戦略的な事業計画1
3	マーケティングの基本とは2	18	戦略的な事業計画2
4	マーケティングの基本とは3	19	戦略的な事業計画3
5	戦略的経営1	20	市場分析と細分化1
6	戦略的経営2	21	市場分析と細分化2
7	戦略的経営3	22	市場分析と細分化3
8	ステークスホルダー・コンセプト1	23	市場分析と細分化4
9	ステークスホルダー・コンセプト2	24	ブランディング1
10	ステークスホルダー・コンセプト3	25	ブランディング2
11	ビジネスの領域設定1	26	価格のストラテジー1
12	ビジネスの領域設定2	27	価格のストラテジー2
13	ビジネスの領域設定3	28	販売促進戦略1
14	外的環境の分析1	29	販売促進戦略2
15	外的環境の分析2	30	期末テスト
【成績評価方法】			
授業参加40%、各回の課題及び期末レポートによる総合的な評価60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループディスカッションなどを行う。 担当教員は海運業界での長年の勤務経験があり、営業、経営、人事業務に関する実務経験を活用し、授業を展開。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバル経営・マーケティング	古野和夫	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、これからの社会変化の大きな流れを掴む。 新たな事業を創造する際に必要なステップがわかる。			
【講義概要】			
社会の変化、トレンドを知り、考えるとともに、自らが新たな事業を想像/創造していく際に必要な方法論、アプローチについて学ぶ。実際にアイデアの立案、検証、市場リサーチを行いレポートの作成を行いながら、経営やマーケティングに必要なスキルを学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	ターゲティング3
2	マーケティングの流れ1	17	ポジショニング1
3	マーケティングの流れ2	18	ポジショニング2
4	マーケティングの流れ3	19	ポジショニング3
5	ニーズの把握1	20	製品戦略1
6	ニーズの把握2	21	製品戦略2
7	ニーズの把握3	22	製品戦略3
8	環境分析(3C分析)1	23	価格戦略1
9	環境分析(3C分析)2	24	価格戦略2
10	環境分析(3C分析)3	25	価格戦略3
11	セグメンテーション1	26	流通戦略1
12	セグメンテーション2	27	流通戦略2
13	セグメンテーション3	28	コミュニケーション戦略1
14	ターゲティング1	29	コミュニケーション戦略2
15	ターゲティング2	30	期末テスト
【成績評価方法】			
授業参加40%、各回の課題及び期末レポートによる総合的な評価60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループディスカッションなどを行う。 担当教員は海運業界での長年の勤務経験があり、営業、経営、人事業務に関する実務経験を活用し、授業を展開。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	マナートレーニング	文屋早苗	2単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>社会人として必要な挨拶や所作、場面によって必要とされるマナーを身につける。 場面に応じて正しい敬語がスムーズに使えるようになる。</p>			
【講義概要】			
<p>社会人として必要な挨拶や所作、場面によって必要とされるマナーを実践的に学ぶ。 また正しい言葉づかいを習得するために所作と同時に敬語も使えるようにトレーニングを行う。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	会食マナー
2	挨拶の基本	17	席次
3	身だしなみ、服装について	18	電話対応 1
4	所作の基本	19	電話対応 2
5	入室と退出について	20	電話対応 3
6	話し方について	21	電話対応 4
7	言葉づかいについて 敬語1(謙譲語)	22	電話対応 5
8	言葉づかいについて 敬語2(尊敬語)	23	ビジネスメールの使用について 1
9	言葉づかいについて 敬語3 まとめ	24	ビジネスメールの使用について 2
10	整理整頓の意識について	25	ビジネスメールの使用について 3
11	会社の組織について	26	指示を受けること、指示をすることについて
12	名刺交換	27	報告、連絡、相談 1
13	接客対応	28	報告、連絡、相談 2
14	会社訪問1	29	期末テスト
15	会社訪問2	30	総まとめ
【成績評価方法】			
<p>授業参加40%、テスト60%</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的にグループワークやディスカッションなども行う実習形式である。</p> <p>担当教員は大手上場企業において長年総務・人事・営業事務に携わり、外資系日本人においても来客対応業務を経験。これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	マナートレーニング	中丸優子	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、社会人として必要な挨拶や所作、場面によって必要とされるマナーを身につける。場面に応じて正しい行動ができるようになる。			
【講義概要】			
ディスカッションや作文を通して、社会人として必要な挨拶や所作、場面によって必要とされる文章のマナーを実践的に学ぶ。 また、正しい言葉づかいを習得するために敬語も使えるようにトレーニングを行う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	16	自己紹介、オリエンテーション、作文の基礎	
2	17	ビジネスコミュニケーション アポイントをとる	
3	18	ビジネスコミュニケーション アドバイスを求める	
4	19	ビジネスコミュニケーション 伝言する	
5	20	ビジネスコミュニケーション 誘う	
6	21	ビジネスコミュニケーション 謝る	
7	22	ビジネスコミュニケーション 募集する	
8	23	ビジネスコミュニケーション 問い合わせる	
9	24	ビジネスコミュニケーション 依頼する	
10	25	ビジネスコミュニケーション 報告する	
11	26	ビジネスコミュニケーション お礼を言う	
12	27	ビジネスコミュニケーション 経験についての感想を書く	
13	28	ビジネスコミュニケーション 授業についてのコメントを書く	
14	29	ビジネスコミュニケーション 自己PR文を書く	
15	30	期末テスト、総まとめ	
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
グループワークやディスカッションで内容の理解を深め、作文で仕上げを行う実戦形式。担当教員は約15年間、日本、シンガポール、香港の日本語学校や高校で指導。それ以前は出版社の編集部にて約17年間勤務。後輩社員の原稿執筆指導にもあたってきた経験をいかして授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義/実習	プロジェクトチームワーク	廣光恵	3単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>自ら課題を見つけ、課題の分析、情報の収集、解決の立案ができる。</p> <p>PDCAサイクルを自立的に回すことができる。</p> <p>SDGsに関心を持つ。</p>			
【講義概要】			
<p>恵比寿を起点に、渋谷区、東京都、日本全国など、地域の産業や文化などについて調査、分析、発表を多国籍グループで行う。課題、問題点の提示を受け、グループによるPBL(Problem Based Learning)学習法を通じて、総合的な課題解決力を養う。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	グループ調査1
2	アイスブレイキング、チームビルディング	17	グループ調査2
3	SDGsについて1	18	グループ調査3
4	SDGsについて2	19	中間報告1
5	SDGsについて3	20	中間報告2
6	課題の調査1	21	解決方法の検証1
7	課題の調査2	22	解決方法の検証2
8	課題の設定1	23	解決方法の検証3
9	課題の設定2	24	成果発表1
10	解決方法の立案1	25	成果発表2
11	解決方法の立案2	26	成果修正1
12	計画の設定1	27	成果修正2
13	計画の設定2	28	リハーサル
14	自主学习1	29	全体発表
15	自主学习2	30	フィードバック
【成績評価方法】			
授業参加40%、成果発表60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義形式で行い、毎回実習としてリサーチとグループワークと発表を行う。</p> <p>担当教員は、米国の研究機関や、インドのNGOでSDGsのプロジェクトに携わった経験を持っており、これまでの実務経験に基づく授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	プロジェクトチームワーク	廣光恵	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>1年次に学んだことを基礎とし、課題解決を行う当事者としての主体性を身につける。</p> <p>課題を明確にし、PDCAサイクルを効率的に回しながら、協同でその解決をはかることができる。</p> <p>SDGsに関心を持ち、自分事として、考えて行動することができる。</p>			
【講義概要】			
<p>日本のみならず世界で課題になっている事柄について、多国籍チームで調査、分析し自分達にできる解決方法を提案、発表する。自分達で課題、問題点を見つけ、グループによるPBL(Problem Based Learning)学習法を通じて、より実践的な課題解決能力を培う。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	課題に関する調査2
2	アイスブレイキング、チームビルディング	17	課題に関する調査3
3	課題の設定1	18	課題に関するデータの分析1
4	課題の設定2	19	課題に関するデータの分析2
5	課題の設定3	20	課題に関する理論的な探究
6	計画立案1	21	課題解決に資する実践・理論の整理1
7	計画立案2	22	課題解決に資する実践・理論の整理2
8	情報資料収集1	23	課題解決のための具体策の作成1
9	情報資料収集2	24	課題解決のための具体策の作成2
10	情報資料収集3	25	発表準備1
11	情報資料収集4	26	発表準備2
12	報告準備	27	成果発表1
13	中間報告1	28	リハーサル
14	中間報告2	29	全体発表
15	課題に関する調査1	30	フィードバック
【成績評価方法】			
授業参加40%、成果発表60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義形式で行い、毎回実習としてリサーチとグループワークと発表を行う。</p> <p>担当教員は、米国の研究機関や、インドのNGOでSDGsのプロジェクトに携わった経験を持っており、これまでの実務経験に基づく授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	プロジェクトチームワーク	廣光恵	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>自ら課題を見つけ、課題の分析、情報の収集、解決の立案ができる。</p> <p>PDCAサイクルを自立的に回すことができる。</p> <p>SDGsに関心を持つ。</p>			
【講義概要】			
<p>恵比寿を起点に、渋谷区、東京都、日本全国など、地域の産業や文化などについて調査、分析、発表を多国籍グループで行う。課題、問題点の提示を受け、グループによるPBL(Problem Based Learning)学習法を通じて、総合的な課題解決力を養う。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	グループ調査1
2	アイスブレイキング、チームビルディング	17	グループ調査2
3	SDGsについて1	18	グループ調査3
4	SDGsについて2	19	中間報告1
5	SDGsについて3	20	中間報告2
6	課題の調査1	21	解決方法の検証1
7	課題の調査2	22	解決方法の検証2
8	課題の設定1	23	解決方法の検証3
9	課題の設定2	24	成果発表1
10	解決方法の立案1	25	成果発表2
11	解決方法の立案2	26	成果修正1
12	計画の設定1	27	成果修正2
13	計画の設定2	28	リハーサル
14	自主学习1	29	全体発表
15	自主学习2	30	フィードバック
【成績評価方法】			
授業参加40%、成果発表60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義形式で行い、毎回実習としてリサーチとグループワークと発表を行う。</p> <p>担当教員は、米国の研究機関や、インドのNGOでSDGsのプロジェクトに携わった経験を持っており、実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	文章表現	倉澤雅子	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>正しく、意味の通る文が書ける。身近なテーマについて、首尾一貫した文章で、自分の考えを記述することができる。身近な社会問題などについて、自分なりの意見を論理的な文章にできる。</p> <p>様々な意見や事実をまとめたり、比較したりしながら、自分の考えを文章にできる。</p>			
【講義概要】			
<p>正しく、首尾一貫した文章が書けるようになることを目標に、良い例と悪い例を挙げながら講義する。実際に様々なテーマで小論文を書き、自分の考えを整理し、順序立てて文章にする練習をする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション文章表現の技術とは	16	二つの意見 I 1
2	文章作成能力のチェック I	17	二つの意見 I 2
3	「である体」について I	18	一つの意見 I 1
4	助詞、基本的な意見文の組み立て方 I	19	一つの意見 I 2
5	文体、書き言葉について I	20	将来の予測 I 1
6	自他動詞、受け身 I	21	将来の予測 I 2
7	名詞化、和語・漢語 I	22	小論文について I
8	首尾一貫した文 I	23	よく使われる表現の分析 I
9	質問と自分の意見の分析 I	24	論理の立て方トレーニング I
10	呼応の技術 I	25	テーマ論文作成 I 1
11	因果関係、接続詞 I	26	テーマ論文作成 I 2
12	気持ちを表す表現 I	27	テーマ論文作成 I 3
13	意見と根拠 I	28	テーマ論文作成 I 4
14	文の長さを読みやすさ I	29	期末テスト
15	比較、対比の表現 I	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義と実習形式で行い、実習では各回作文や要約の発表を行う。</p> <p>担当教員は文章添削や論文指導の経験を持っており、これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	文章表現	倉澤雅子	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>正しく、意味の通る文が書ける。身近なテーマについて、首尾一貫した文章で、自分の考えを記述することができる。身近な社会問題などについて、自分なりの意見を論理的な文章にできる。</p> <p>様々な意見や事実をまとめたり、比較したりしながら、自分の考えを文章にできる。</p>			
【講義概要】			
<p>正しく、首尾一貫した文章が書けるようになることを目標に、良い例と悪い例を挙げながら講義する。実際に様々なテーマで小論文を書き、自分の考えを整理し、順序立てて文章にする練習をする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション文章表現の技術とは	16	二つの意見 I 1 [要約、作文発表]
2	文章作成能力のチェック I [要約、作文発表]	17	二つの意見 I 2 [作文発表]
3	「である体」について I [作文発表]	18	一つの意見 I 1 [作文発表]
4	助詞、基本的な意見文の組み立て方 I [作文発表]	19	一つの意見 I 2 [作文発表]
5	文体、書き言葉について I [作文発表]	20	将来の予測 I 1 [作文発表]
6	自他動詞、受け身 I [作文発表]	21	将来の予測 I 2 [作文発表]
7	名詞化、和語・漢語 I [作文発表]	22	小論文について I [要約、作文発表]
8	首尾一貫した文 I [作文発表]	23	よく使われる表現の分析 I [要約、作文発表]
9	質問と自分の意見の分析 I [作文発表]	24	論理の立て方トレーニング I [要約、作文発表]
10	呼応の技術 I [作文発表]	25	テーマ論文作成 I 1 [作文発表]
11	因果関係、接続詞 I [作文発表]	26	テーマ論文作成 I 2 [作文発表]
12	気持ちを表す表現 I [作文発表]	27	テーマ論文作成 I 3 [作文発表]
13	意見と根拠 I [作文発表]	28	テーマ論文作成 I 4 [作文発表]
14	文の長さを読みやすさ I [作文発表]	29	期末テスト
15	比較、対比の表現 I [作文発表]	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義と実習形式で行い、実習では各回作文や要約の発表を行う。</p> <p>担当教員は文章添削や論文指導の経験を持っており、これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	文章表現	倉澤雅子	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>1年次に学んだことを基礎とし、首尾一貫した文章で、自分の考えを記述することができる。 身近な社会問題などについて、自分なりの意見を論理的な文章にできる。 様々な意見や事実をまとめたり、比較したりしながら、自分の考えを文章にできる。</p>			
【講義概要】			
<p>正しく、首尾一貫した文章が書けるようになることを目標に、良い例と悪い例を挙げながら講義する。 実際に様々なテーマで小論文を書き、自分の考えを整理し、順序立てて文章にする練習をする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション文章表現の技術とは	16	二つの意見Ⅱ 1
2	文章作成能力のチェックⅡ	17	二つの意見Ⅱ 2
3	「である体」についてⅡ	18	一つの意見Ⅱ 1
4	助詞、基本的な意見文の組み立て方Ⅱ	19	一つの意見Ⅱ 2
5	文体、書き言葉についてⅡ	20	将来の予測Ⅱ 1
6	自他動詞、受け身Ⅱ	21	将来の予測Ⅱ 2
7	名詞化、和語・漢語Ⅱ	22	小論文についてⅡ
8	首尾一貫した文Ⅱ	23	よく使われる表現の分析Ⅱ
9	質問と自分の意見の分析Ⅱ	24	論理の立て方トレーニングⅡ
10	呼応の技術Ⅱ	25	テーマ論文作成Ⅱ 1
11	因果関係、接続詞Ⅱ	26	テーマ論文作成Ⅱ 2
12	気持ちを表す表現Ⅱ	27	テーマ論文作成Ⅱ 3
13	意見と根拠Ⅱ	28	テーマ論文作成Ⅱ 4
14	文の長さを読みやすさⅡ	29	期末テスト
15	比較、対比の表現Ⅱ	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義と実習形式で行い、実習では各回作文や要約の発表を行う。 担当教員は文章添削や論文指導の経験を持っており、これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	文章表現	倉澤雅子	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>1年次に学んだことを基礎とし、首尾一貫した文章で、自分の考えを記述することができる。 身近な社会問題などについて、自分なりの意見を論理的な文章にできる。 様々な意見や事実をまとめたり、比較したりしながら、自分の考えを文章にできる。</p>			
【講義概要】			
<p>正しく、首尾一貫した文章が書けるようになることを目標に、良い例と悪い例を挙げながら講義する。 実際に様々なテーマで小論文を書き、自分の考えを整理し、順序立てて文章にする練習をする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション文章表現の技術とは	16	二つの意見Ⅱ 1〔要約、作文発表〕
2	文章作成能力のチェックⅡ〔要約、作文発表〕	17	二つの意見Ⅱ 2〔作文発表〕
3	「である体」についてⅡ〔作文発表〕	18	一つの意見Ⅱ 1〔作文発表〕
4	助詞、基本的な意見文の組み立て方Ⅱ〔作文発表〕	19	一つの意見Ⅱ 2〔作文発表〕
5	文体、書き言葉についてⅡ〔作文発表〕	20	将来の予測Ⅱ 1〔作文発表〕
6	自他動詞、受け身Ⅱ〔作文発表〕	21	将来の予測Ⅱ 2〔作文発表〕
7	名詞化、和語・漢語Ⅱ〔作文発表〕	22	小論文についてⅡ〔要約、作文発表〕
8	首尾一貫した文Ⅱ〔作文発表〕	23	よく使われる表現の分析Ⅱ〔要約、作文発表〕
9	質問と自分の意見の分析Ⅱ〔作文発表〕	24	論理の立て方トレーニングⅡ〔要約、作文発表〕
10	呼応の技術Ⅱ〔作文発表〕	25	テーマ論文作成Ⅱ 1〔作文発表〕
11	因果関係、接続詞Ⅱ〔作文発表〕	26	テーマ論文作成Ⅱ 2〔作文発表〕
12	気持ちを表す表現Ⅱ〔作文発表〕	27	テーマ論文作成Ⅱ 3〔作文発表〕
13	意見と根拠Ⅱ〔作文発表〕	28	テーマ論文作成Ⅱ 4〔作文発表〕
14	文の長さを読みやすさⅡ〔作文発表〕	29	期末テスト
15	比較、対比の表現Ⅱ〔作文発表〕	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義と実習形式で行い、実習では各回作文や要約の発表を行う。 担当教員は文章添削や論文指導の経験を持っており、これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	IT情報リテラシー	廣光恵	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を収集、分析し、活用することができる。 ・ 集めた情報にさらに付加価値を加え、発信することができる。 			
【講義概要】			
<p>現代社会は非常に多くの情報であふれており、社会において、正確かつ価値のある情報を集め、活用するとともに、自身が情報の発信者になるためには、様々なスキルが求められる。本講義では、情報の収集から分析、発信までに必要なスキルを総合的に学び、演習を通じて習得することを目指す。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	情報発信①:個人が活用できるWebメディア1
2	情報過多の時代に何を発信するか1	17	情報発信①:個人が活用できるWebメディア2
3	情報過多の時代に何を発信するか2	18	情報発信①:個人が活用できるWebメディア3
4	情報収集①:文献調査法1	19	情報発信②:個人 Webサイトの制作1
5	情報収集①:文献調査法2	20	情報発信②:個人 Webサイトの制作2
6	情報収集②:アンケート調査法1	21	情報発信②:個人 Webサイトの制作3
7	情報収集②:アンケート調査法2	22	総合演習①:テーマ選定1
8	情報収集③:質的調査法1	23	総合演習①:テーマ選定2
9	情報収集③:質的調査法2	24	総合演習②:進捗報告(リサーチ結果)1
10	情報分析①:Rの基本1	25	総合演習②:進捗報告(リサーチ結果)2
11	情報分析①:Rの基本2	26	総合演習③:進捗報告(動画・Webサイト制作)1
12	情報分析②:Rによるデータ分析1	27	総合演習③:進捗報告(動画・Webサイト制作)2
13	情報分析②:Rによるデータ分析2	28	総合演習④:プレゼンテーション1
14	情報分析③:Rによるテキストマイニング1	29	総合演習④:プレゼンテーション2
15	情報分析③:Rによるテキストマイニング2	30	レポート作成、提出
【成績評価方法】			
授業参加40%、各回の課題及び期末レポートによる総合的な評価60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は講義のほか、学外でのリサーチ等も行う。</p> <p>講師は、国内外の企業や研究機関でのリサーチ、データ解析およびWebサイトの制作の経験を持つ。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	IT情報リテラシー	廣光恵	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、情報を収集、分析し、活用することができる。 また、集めた情報にさらに付加価値を加え、発信することができる。			
【講義概要】			
現代社会は非常に多くの情報であふれており、社会において、正確かつ価値のある情報を集め、活用するとともに、自身が情報の発信者になるためには、様々なスキルが求められる。本講義では、情報の収集から分析、発信までに必要なスキルを総合的に学び、演習を通じて習得することを目指す。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	情報発信方法 基礎1
2	情報分析方法 基礎1	17	情報発信方法 基礎2
3	情報分析方法 基礎2	18	情報発信方法 基礎3
4	情報収集:文献調査1	19	情報発信:Webサイトの制作1
5	情報収集:文献調査2	20	情報発信:Webサイトの制作2
6	情報収集:文献調査3	21	情報発信:Webサイトの制作3
7	情報収集:アンケート調査1	22	情報発信:Webサイトの制作4
8	情報収集:アンケート調査2	23	演習:テーマ選定
9	情報収集:アンケート調査3	24	演習:情報収集
10	情報収集:質的調査1	25	演習:情報分析
11	情報収集:質的調査2	26	演習:情報発信1
12	情報分析:データ分析1	27	演習:情報発信2
13	情報分析:データ分析2	28	プレゼンテーション1
14	情報分析:データ分析3	29	プレゼンテーション2
15	情報分析:データ分析4	30	レポート作成、提出
【成績評価方法】			
授業参加40%、各回の課題及び期末レポートによる総合的な評価60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は講義のほか、学外でのリサーチ等も行う。 講師は、国内外の企業や研究機関でのリサーチ、データ解析およびWebサイトの制作の経験を持つ。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ビジネス検定対策	梅田美由記	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>ビジネス実務マナー検定の3級または2級を取得する。 検定対策を通して、仕事の仕方やマナーを身につける。</p>			
【講義概要】			
<p>ビジネスマナー実務検定対策を行う。対策を通して、社会人として業務を行う際に必要である常識的な判断や行動力を身につける。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーションビジネス実務マナー検定とは	16	丁寧な話し方1
2	模擬試験1	17	丁寧な話し方2
3	必要とされる資質	18	一般的な交際業務1
4	ビジネスマンとしての資質1	19	一般的な交際業務2
5	ビジネスマンとしての資質2	20	電話実務 会話力1
6	ビジネスマンとしての資質3	21	電話実務 会話力2
7	執務要件1	22	電話実務 応対力1
8	執務要件2	23	電話実務 応対力2
9	企業実務	24	情報の整理と伝達
10	組織の機能1	25	文書の取り扱い1
11	組織の機能2	26	文書の取り扱い2
12	実務における対人関係	27	会議の実施について
13	マナー1	28	模擬試験2
14	マナー2	29	期末試験
15	マナー3	30	総復習
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的にグループワークやディスカッションなども行う実習形式である。 担当教員は大手上場企業において13年間受付業務、営業事務、運營業務、研修業務、CSR活動業務を経験。 上場大手アパレル企業にても来客対応業務を経験。これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ビジネス検定対策	梅田美由記	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、ビジネス実務マナー検定の3級または2級を取得する。 検定対策を通して、より実践的に仕事の仕方やマナーを身につける。			
【講義概要】			
ビジネスマナー実務検定対策を行う。対策を通して、社会人として業務を行う際に必要である常識的な判断や行動力を身につける。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーションビジネス実務マナー検定とは	16	マナー3
2	模擬試験1	17	適切な対人行動 話し方1
3	必要とされる資質	18	適切な対人行動 話し方2
4	ビジネスマンとしての資質 行動力・判断力1	19	適切な対人行動 話し方3
5	ビジネスマンとしての資質 行動力・判断力2	20	電話実務 会話力1
6	ビジネスマンとしての資質 協調性1	21	電話実務 会話力2
7	ビジネスマンとしての資質 協調性2	22	電話実務 応対力1
8	執務要件 積極性・合理性・効率性1	23	電話実務 応対力2
9	執務要件 積極性・合理性・効率性2	24	情報の整理と伝達1
10	執務要件 積極性・合理性・効率性3	25	情報の整理と伝達2
11	組織の機能 職位・職制・役割1	26	文書の取り扱い1
12	組織の機能 職位・職制・役割2	27	文書の取り扱い2
13	組織の機能 職位・職制・役割3	28	模擬試験2
14	マナー1	29	期末試験
15	マナー2	30	総復習
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的にグループワークやディスカッションなども行う実習形式である。 担当教員は大手上場企業において13年間受付業務、営業事務、運營業務、研修業務、CSR活動業務を経験。 上場大手アパレル企業にて来客対応業務を経験。これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	サービス接客スキルアップ	出川彩歌	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>サービス接客検定の3級または2級を取得する。 検定対策を通して、サービスに対する心構えや対応の技術を身につける。</p>			
【講義概要】			
<p>サービス接客検定対策を行う。対策を通して、サービスに対する心構えや顧客心理の理解、対応の技術 言葉遣い、立ち居振る舞いなどを身につける。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーションサービス接客検定とは	16	対人技能1
2	模擬試験1	17	対人技能2
3	サービススタッフの資質1	18	接客知識1
4	サービススタッフの資質2	19	接客知識2
5	従業要件1	20	接客知識3
6	従業要件2	21	丁寧な話し方1
7	サービスの知識1	22	丁寧な話し方2
8	サービスの知識2	23	身だしなみ服装
9	サービスの知識3	24	実務技能 1問題処理
10	商業用語、経済用語	25	実務技能 2環境整備
11	従業知識1	26	実務技能 3金品管理
12	従業知識2	27	実務技能 4社交業務
13	サービスと社会常識1	28	模擬試験2
14	サービスと社会常識2	29	期末試験
15	サービスと社会常識3	30	総復習
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的にグループワークやディスカッションなども行う実習形式である。 エアライン会社勤務での業務経験を活かし、接客業務等プロの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	サービス接客スキルアップ	梅田美由記	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、サービス接客検定の3級または2級を取得する。 検定対策を通して、より実践的にサービスに対する心構えや対応の技術を身につける。			
【講義概要】			
サービス接客検定対策を行う。対策を通して、サービスに対する心構えや顧客心理の理解、対応の技術言葉遣い、立ち居振る舞いなどを身につける。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーションサービス接客検定とは	16	対人技能 接客1
2	模擬試験1	17	対人技能 接客2
3	サービススタッフの資質 身だしなみ	18	対人技能 接客3
4	サービススタッフの資質 適切な判断1	19	丁寧な話し方1
5	サービススタッフの資質 適切な判断2	20	丁寧な話し方2
6	従業要件 協調性・忍耐力1	21	丁寧な話し方3
7	従業要件 協調性・忍耐力2	22	丁寧な話し方4
8	従業要件 協調性・忍耐力3	23	実務技能 問題処理1
9	サービスの知識 意義・サービスの種類1	24	実務技能 問題処理2
10	サービスの知識 意義・サービスの種類2	25	実務技能 環境整備
11	サービスの知識 意義・サービスの種類3	26	実務技能 金品管理
12	従業知識 商業用語・経済用語1	27	実務技能 社交業務
13	従業知識 商業用語・経済用語2	28	模擬試験2
14	社会常識 常識・時事1	29	期末試験
15	社会常識 常識・時事1	30	総復習
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的にグループワークやディスカッションなども行う実習形式である。 担当教員は大手上場企業において13年間受付業務、営業事務、運營業務、研修業務、CSR活動業務を経験。 上場大手アパレル企業にて来客対応業務を経験。これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	面接対策	梅田美由記	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>就職や入学試験で行われる面接で、自分の考えや意見を伝えることができる。 就職や入学試験に必要な書類作成や準備が自らできる。</p>			
【講義概要】			
<p>就職や入学試験のあらゆる面接を想定し、自分の考えや意見、個性を表現できるよう実践的なトレーニングを行う。 自己PRや志望動機、長所短所、がんばってきたことの作成、他、履歴書の作成や面接マナーなども学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション面接とは	16	分野、業界分析1
2	様々な面接形式について1	17	分野、業界分析2
3	様々な面接形式について2	18	分野、業界分析3
4	履歴書の作り方1	19	分野、業界分析4
5	履歴書の作り方2	20	志望動機作成
6	自己分析人生曲線1	21	志望動機トレーニング
7	自己分析人生曲線2	22	伝える技術ブラッシュアップ1
8	自己分析人生曲線3	23	伝える技術ブラッシュアップ2
9	自己分析自分史1	24	伝える技術ブラッシュアップ3
10	自己分析自分史2	25	模擬面接1
11	自己分析自分史3	26	模擬面接フィードバック1
12	自己PR作成	27	模擬面接2
13	自己PRトレーニング	28	模擬面接フィードバック2
14	面接会場入退室について1	29	期末テスト
15	面接会場入退室について2	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的にグループワークやディスカッションなども行う実習形式である。 担当教員は大手上場企業において13年間受付業務、営業事務、運營業務、研修業務、CSR活動業務を経験。 上場大手アパレル企業にて来客対応業務を経験。これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	面接対策	梅田美由記	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、就職や入学試験で行われる面接で、自分の考えや意見を伝えることができる。就職や入学試験に必要な書類作成や準備が自らできる。			
【講義概要】			
就職や入学試験のあらゆる面接を想定し、自分の考えや意見、個性を表現できるよう実践的なトレーニングを行う。自己PRや志望動機、長所短所、がんばってきたことの作成、他、履歴書の作成や面接マナーなども学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション面接とは	16	志望動機 分析と関連付け1
2	面接の形式1	17	志望動機 分析と関連付け2
3	面接の形式2	18	志望動機 分析と関連付け3
4	エントリーシートの作り方1	19	志望動機 分析と関連付け4
5	エントリーシートの作り方2	20	伝える技術ブラッシュアップ1
6	自己アピール 長所1	21	伝える技術ブラッシュアップ2
7	自己アピール 長所2	22	伝える技術ブラッシュアップ3
8	自己アピール 短所1	23	模擬面接1
9	自己アピール 短所2	24	模擬面接フィードバック1
10	自己アピール 壁にぶつかったこと1	25	模擬面接2
11	自己アピール 壁にぶつかったこと2	26	模擬面接フィードバック2
12	自己アピール 壁にぶつかったこと3	27	模擬面接3
13	自己アピール 力を入れたこと1	28	模擬面接フィードバック3
14	自己アピール 力を入れたこと2	29	期末テスト
15	模擬面接1	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的にグループワークやディスカッションなども行う実習形式である。			
担当教員は大手上場企業において13年間受付業務、営業事務、運營業務、研修業務、CSR活動業務を経験。上場大手アパレル企業にて来客対応業務を経験。これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバルコミュニケーション英語	廣光恵	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>英語を使ったコミュニケーション力を身につける</p> <p>日常からフォーマルまで様々な場面で、簡単な英語を使って自分の考えや相手への依頼や物事の説明などができるようになる。</p>			
【講義概要】			
<p>世界の共通言語として使われている英語の特に「話す」と「聞く」の練習を行う。</p> <p>練習は会話の場面ごとに行い、そのときに必要な語彙や文法表現を同時に学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	Getting Started	16	Talking About Your Company 1
2	Introductions & Small Talk 1	17	Talking About Your Company 2
3	Introductions & Small Talk 2	18	Putting It All Together III
4	Introductions & Small Talk 3	19	Telephoning 1
5	Reactions	20	Telephoning 2
6	Ending a Conversation	21	Telephoning 3
7	Putting It All Together I	22	Putting It All Together IV
8	Describing People 1	23	Directions 1
9	Describing People 2	24	Directions 2
10	Talking About Yourself 1	25	Putting It All Together V
11	Talking About Yourself 2	26	Schedules & Appointments 1
12	Talking About Yourself 3	27	Schedules & Appointments 2
13	Putting It All Together II	28	Offers & Requests
14	Talking About Objects 1	29	Putting It All Together VI
15	Talking About Objects 2	30	Test
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループワークなどを行う。</p> <p>担当教員は、米国とインドでの職務経験、オーストラリアの英会話スクールShining Shapes日本校での指導経験、外資系企業社員へのTOEIC指導経験を持つ。海外での実務経験を活かし授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバルコミュニケーション英語	廣光恵	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、英語を使ったコミュニケーション力を身につける 日常からフォーマルまで様々な場面で、英語を使って自分の考えや相手への依頼や物事の説明などが できるようになる。			
【講義概要】			
世界の共通言語として使われている英語の特に「話す」と「聞く」の練習を行う。 練習はより日常の会話場面ごとに行い、そのときに必要な語彙や文法表現を同時に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	Daily conversation : Where are you from?	16	Daily conversation : That sounds fun!
2	Daily conversation : I'm tall and thin	17	Daily conversation : I'd love to go
3	Daily conversation : Alice is more serious	18	Daily conversation : I'm sorry, but I can't..
4	Daily conversation : All of my friends text	19	Daily conversation : Sorry I'm late
5	Daily conversation : I've never had Thai food	20	Daily conversation : Did you go alone?
6	Daily conversation : First, grill the bread	21	Daily conversation : Which do you prefer?
7	Daily conversation : The service is great	22	Daily conversation : You must get a visa
8	Daily conversation : Are you ready to order?	23	Daily conversation : When is the next train?
9	Daily conversation : I have a sore throat	24	Daily conversation : I usually wear...
10	Daily conversation : What should I do?	25	Daily conversation : What do you think?
11	Daily conversation : I'd love to try that	26	Daily conversation : Can you do me a favor?
12	Daily conversation : Soccer is more exciting	27	Daily conversation : What is it used for?
13	Daily conversation : I can write pretty well	28	Daily conversation : I feel the same way.
14	Daily conversation : I'd have to have	29	Daily conversation : What would you do?
15	Daily conversation : I travel for free	30	Test
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループワークなどを行う。 担当教員は、米国とインドでの職務経験、オーストラリアの英会話スクールShining Shapes日本校での 指導経験、外資系企業社員へのTOEIC指導経験を持つ。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	TOEIC	廣光恵	4単位／80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

英語の語彙と表現を身につけて、TOEICの問題を短い時間で正確に解くことができるようになる。
試験形式に慣れ、本番に向けて自主学習を行うことができるようになる。
進学、就職に必要なTOEICのスコアを獲れる英語力を身につける。

【講義概要】

TOEIC形式の問題の実践練習を繰り返し取り組み、語彙、表現などを覚え、問題形式に慣れていく。
また、TOEICの各パートで必要な英語力を向上させ、ビジネスに関する知識と英語の運用力を総合的に身につける。

回 授業計画及び学習の内容

1 オリエンテーションTOEICとは	16 Listening Section説明文4
2 模擬試験 I	17 Reading Section短文穴埋め1
3 Listening Section描写1	18 Reading Section短文穴埋め2
4 Listening Section描写2	19 Reading Section短文穴埋め3
5 Listening Section描写3	20 Reading Section長文穴埋め1
6 Listening Section応答1	21 Reading Section長文穴埋め2
7 Listening Section応答2	22 Reading Section長文穴埋め3
8 Listening Section応答3	23 Reading Section読解1
9 Listening Section会話1	24 Reading Section読解2
10 Listening Section会話2	25 Reading Section読解3
11 Listening Section会話3	26 Reading Section読解4
12 Listening Section会話4	27 Reading Section読解5
13 Listening Section説明文1	28 模擬試験 II
14 Listening Section説明文2	29 期末試験
15 Listening Section説明文3	30 総復習

【成績評価方法】

授業参加40%、テスト60%

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は基本的に講義形式と確認のための小テストを行っていく。
担当教員は国内の企業向けにTOEIC対策や英語の指導を行ってきた専門家で、その実務経験に基づいて授業を展開する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	TOEIC	廣光恵	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年次に学んだことを基礎とし、英語の語彙と表現を身につけて、TOEICの問題を短い時間で正確に解くことができるようになる。試験形式に慣れ、本番に向けて自主学習を行うことができるようになる。進学、就職に必要なTOEICのスコアを獲れる英語力を身につける。			
【講義概要】			
TOEIC形式の問題の実践練習を繰り返し取り組み、語彙、表現などを覚え、問題形式に慣れていく。また、TOEICの各パートに必要な英語力を向上させ、ビジネスに関する知識と英語の運用力を総合的に身につける。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーションTOEICとは	16	Listening Section描写1
2	模擬試験 I	17	Listening Section描写2
3	Reading Section短文穴埋め1	18	Listening Section描写3
4	Reading Section短文穴埋め2	19	Listening Section応答1
5	Reading Section短文穴埋め3	20	Listening Section応答2
6	Reading Section短文穴埋め4	21	Listening Section応答3
7	Reading Section長文穴埋め1	22	Listening Section会話1
8	Reading Section長文穴埋め2	23	Listening Section会話2
9	Reading Section長文穴埋め3	24	Listening Section会話3
10	Reading Section長文穴埋め4	25	Listening Section説明文1
11	Reading Section読解1	26	Listening Section説明文2
12	Reading Section読解2	27	Listening Section説明文3
13	Reading Section読解3	28	模擬試験 II
14	Reading Section読解4	29	期末試験
15	Reading Section読解5	30	総復習
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的に講義形式と確認のための小テストを行っていく。 担当教員は国内海外の企業向けにTOEIC対策や英語の指導を行ってきた専門家で、その実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	プレゼンテーション	アルサーテ麗	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
Power Pointを使ったプレゼンテーションができるようになる。 プレゼンテーションに必要な、構成、情報収集、資料作成、フレーズ作成ができるようになる。			
【講義概要】			
聞き手の心を動かすプレゼンテーションについて、実例を交えながら、基礎の技術を学んでいく。 一般的なプレゼンテーションのソフトだけでなく他の効果的な方法についても知り、 また、伝え方についても学びプレゼンテーション能力を総合的に高める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーションプレゼンテーションとは	16	プレゼンテーションの伝え方、話す技術1
2	プレゼンテーションソフトPower Point1	17	プレゼンテーションの伝え方、話す技術2
3	プレゼンテーションソフトPower Point2	18	プレゼンテーションの伝え方、話す技術3
4	プレゼンテーションソフトPower Point3	19	プレゼンテーションの伝え方、話す技術4
5	プレゼンテーションソフトその他のアプリケーション	20	ストーリー構成
6	ストーリーの作り方1	21	課題調査1
7	ストーリーの作り方2	22	課題調査2
8	情報の収集と整理方法について1	23	課題調査3
9	情報の収集と整理方法について2	24	プレゼンテーション資料作成1
10	情報の収集と整理方法について3	25	プレゼンテーション資料作成2
11	資料の種類と作成方法について1	26	リハーサル
12	資料の種類と作成方法について2	27	個人発表1
13	資料の種類と作成方法について3	28	個人発表2
14	フレーズ化について1	29	個人発表3
15	フレーズ化について2	30	振り返り、フィードバック
【成績評価方法】			
授業参加40%、個人発表60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
・講義スタイル、ディスカッション、グループワークなど日によって形式は変わる。 担当教員は日系の専門商社や外資系メーカーにて貿易業務のキャリアを積む。現在はオンラインをメインに日本語教師として活躍。企業等での実務経験を活かし授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	プレゼンテーション	孟信和	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>1年次に学んだことを基礎とし、Power Pointを使ったプレゼンテーションができるようになる。 プレゼンテーションに必要な、構成、情報収集、資料作成、フレーズ作成ができるようになる。 相手に伝えたいことについて、伝えられるようになる。</p>			
【講義概要】			
<p>聞き手の心を動かすプレゼンテーションについて、実例を交えながら、基礎の技術を学んでいく。 一般的なプレゼンテーションのソフトだけでなく他の効果的な方法についても知り、 また、伝え方についても学びプレゼンテーション能力を総合的に高める。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーションプレゼンテーションとは	16	プレゼンテーション 伝える技術1
2	Power Pointの使い方1	17	プレゼンテーション 伝える技術2
3	Power Pointの使い方2	18	プレゼンテーション 伝える技術3
4	情報の集め方1	19	課題調査3
5	情報の集め方2	20	課題調査4
6	情報の整理と分析1	21	課題調査5
7	情報の整理と分析2	22	プレゼンテーション資料作成1
8	情報の整理と分析3	23	プレゼンテーション資料作成2
9	資料の作成方法について1	24	プレゼンテーション資料作成3
10	資料の作成方法について2	25	リハーサル1
11	資料の作成方法について3	26	リハーサル2
12	課題調査1	27	個人発表2
13	課題調査2	28	個人発表3
14	個人発表1	29	個人発表4
15	振り返り、フィードバック1	30	振り返り、フィードバック2
【成績評価方法】			
授業参加40%、個人発表60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>くだけた日本語のレベルを超えて、社会人のきれいな日本語が身につくように、発音、抑揚、イントネーション、トーンなどの練習を含む口頭練習のトレーニングに集中させる。 担当教員は日本生まれの韓国語バイリンガル。21年間の韓国ソウル在住中には大学や大企業の語学研修院にて日本語を教える傍ら、ラジオ局のフリーアナウンサーの経歴もあり、さらに、米国大学院において日本語教授法研修コース修了、及び、Tutorも経験。日本に帰国後は大学にて韓国語も教えるようになり、語学教育歴は30年以上になる。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	SPI	廣光恵	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
採用試験で正確に速答ができるようになる。 試験形式に慣れ、本番に向けて自主学習を行うことができるようになる。 言語系、非言語系の問題を解くことで職業観を身につける。			
【講義概要】			
企業就職に必要なSPI試験対策を行う。 対策を通して、社会人としての言語系・非言語系における基礎学力を身につける。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーションSPIとは	16	金銭計算3仕事算
2	推論1論理的関係・順位関係	17	金銭計算4精算
3	推論2位置関係・勝敗関係・対応関係	18	金銭計算5売買の条件
4	計算1割合	19	図表1ラフの領域
5	計算2比率	20	図表2条件と領域
6	計算3速度	21	図表3ブラックボックス
7	計算4旅人算	22	図表4モノの流れと比率
8	計算5場合の数	23	言語系1同意語・反意語
9	計算6確率	24	言語系2二語関係・語句の意味
10	計算7集合	25	言語系3 空所補充・文章整序
11	計算8表計算	26	言語系4長文読解
12	計算9資料解釈	27	非言語系確認テスト
13	計算10長文の計算	28	言語系確認テスト
14	金銭計算1損益算	29	期末テスト
15	金銭計算2分割払い	30	総まとめ
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的に講義形式であるが各回確認のための小テストを行う。 担当教員は海外、国内での勤務経験があり、社会人への就職活動支援の経験を持っており、これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	SPI	廣光恵	4単位／80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

1年次に学んだことを基礎としながら、採用試験で正確に速答ができるようになる。
試験形式に慣れ、本番に向けて自主学習を行うことができるようになる。
言語系、非言語系の問題を解くことで職業観を身につける。

【講義概要】

企業就職に必要なSPI試験対策を行う。
対策を通して、社会人としての言語系・非言語系における基礎学力を身につける。

回	授業計画及び学習の内容
---	-------------

1	オリエンテーションSPIとは	16	図表 グラフの領域・条件と領域1
2	計算 割合1	17	図表 グラフの領域・条件と領域2
3	計算 割合2	18	図表 表の読み取り1
4	計算 割合3	19	図表 表の読み取り2
5	計算 損益算1	20	言語系 同意語・反意語1
6	計算 損益算2	21	言語系 同意語・反意語2
7	計算 割引・分割1	22	言語系 二語関係・語句の意味1
8	計算 割引・分割2	23	言語系 二語関係・語句の意味2
9	計算 割引・分割3	24	言語系 空所補充・文章整序
10	計算 流水算1	25	言語系 長文読解1
11	計算 流水算2	26	言語系 長文読解2
12	計算 集合・確率1	27	非言語系確認テスト
13	計算 集合・確率2	28	言語系確認テスト
14	計算 集合・確率3	29	期末テスト
15	中間確認テスト	30	総まとめ

【成績評価方法】

授業参加40%、テスト60%

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は基本的に講義形式であるが各回確認のための小テストを行う。
担当教員は海外、国内での勤務経験があり、社会人への就職活動支援の経験を持っており、これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	一般教養政治・経済	柳沼 壽	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>ミクロ経済学の基本的概念を説明できる。 現実の経済現象を専門用語で説明できる。</p>			
【講義概要】			
<p>経済学には主として個別の企業や家計の行動を分析するミクロ経済学と、経済全体の動きを分析するマクロ経済学がある。ミクロ経済学について、後期は、企業経済学のテーマを紹介し、マクロ経済学の概念と様々な応用分析を学び、経済活動と日常生活の関係性についても学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	イントロダクション	16	企業の経済学-1- 企業価値/株価決定
2	なぜ経済学を学ぶのか？企業の浮き沈み	17	企業の経済学-2- 3つの経済性
3	市場と競争-1-市場の構造、需要と供給	18	日本のマクロ経済-1- 集計的付加価値
4	市場と競争-2- 需要曲線と消費者行動	19	日本のマクロ経済-2- 低成長、物価、失業
5	市場と競争-3- 消費者余剰と生産者余剰	20	本のマクロ経済-3- 貨幣量、利子率、為替相場
6	市場の失敗-1-独占の理論、完全競争・独占的競争	21	マクロ経済の仕組み-1-経済循環、三面等価の法則
7	市場の失敗-2-外部性	22	マクロ経済の仕組み-2-貯蓄投資バランス
8	市場の失敗-3-公共財	23	マクロ経済の仕組み -3-総需要と均衡
9	市場の失敗-4-不確実性、情報の非対称性	24	財政と金融-1- 財政の機能と仕組み
10	市場の失敗-5-レモンの市場	25	財政と金融-2- 財政の機能と仕組み
11	市場の失敗-6-モラルハザード	26	国際ビジネスの経済学-1-貿易、比較優位と経済厚生
12	競争と戦略-1-差別化競争と価格競争	27	国際ビジネスの経済学-2-資本移動・貿易、為替相場
13	競争と戦略-2-ゲームの理論、支配戦略均衡	28	国際ビジネスの経済学-3-為替レート決定理論
14	競争と戦略-3-ナッシュ均衡	29	国際ビジネスの経済学-4-貿易と景気変動
15	競争と戦略-4-展開型ゲーム、参入阻止行動	30	期末テスト
【成績評価方法】			
小テスト3回(60%)、最終レポート(30%)、グループ討論まとめ(10%)			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループディスカッションなどを行う。 担当教員は日本開発銀行(現日本政策投資銀行)などで役職を歴任し、企業向けの研修や講演なども数多く手がけている。これらの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	一般教養政治・経済	柳沼 壽	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
経済活動において中心的役割を果たす企業の活動を、企業の戦略行動や市場競争と活動成果等に関連付けて説明できる。			
【講義概要】			
1年次で学習したミクロ経済学とマクロ経済学の基本を踏まえて、2年次では経済活動の要ともいえる企業活動に焦点を絞って企業間競争と企業の組織・戦略行動や活動成果・社会的意義などの観点から学んでいく。多数の事例を紹介して、理論と現実との対応関係が理解できるように進めていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	イントロダクション	16	財務管理と経営分析について学ぶ①
2	経営学をやさしく学ぶ①	17	財務管理と経営分析について学ぶ②
3	経営学をやさしく学ぶ②	18	企業活動と企業の社会的責任について学ぶ①
4	企業・会社の基本と会社法について学ぶ	19	企業活動と企業の社会的責任について学ぶ②
5	経営者と経営管理について学ぶ	20	論文テーマの発表① 小テスト
6	経営戦略と経営組織について学ぶ①	21	経営の国際化、現地化について学ぶ①
7	経営戦略と経営組織について学ぶ②	22	経営の国際化、現地化について学ぶ②
8	ヒトの役割、人的資源管理について学ぶ①	23	論文作成中間報告①
9	生産管理について学ぶ	24	経済・経営に関するトピックス①
10	モノの流れ、販売と流通について学ぶ①	25	経済・経営に関するトピックス②
11	モノの流れ、販売と流通について学ぶ②	26	論文作成中間報告②
12	マーケティングについて学ぶ①	27	経済・経営に関するトピックス③
13	マーケティングについて学ぶ②	28	経済・経営に関するトピックス④
14	マーケティングについて学ぶ③	29	論文作成中間報告③
15	前期末テスト	30	論文最終発表・提出
【成績評価方法】			
小テスト3回(60%)、最終レポート(30%)、グループ討論まとめ(10%)			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループディスカッションなどを行う。 担当教員は日本開発銀行(現日本政策投資銀行)などで役職を歴任し、企業向けの研修や講演なども数多く手がけている。これらの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	一般教養 地理歴史	梅田美由記	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<ul style="list-style-type: none"> ・一般教養として地理と歴史を身につける。 ・大学の研究や就職後の業務に役立つ概念や定理を理解し使えるようになる。 			
【講義概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・47都道府県と日本の地理、歴史、文化を学ぶ。 ・現代社会にある出来事を結び付けながら知識を深めていく。 ・日本全国を旅するように、その土地の歴史、文化に触れる。 ・各地域の特徴や興味を探り、探究、共有する。 			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション/日本の地域区分	16	近畿地方①(三重～和歌山)
2	北海道の地理・文化・歴史①	17	近畿地方②
3	北海道の地理・文化・歴史②	18	近畿地方③
4	東北地方①(青森～福島)	19	中国地方①(鳥取～山口)
5	東北地方②	20	中国地方②
6	東北地方③	21	中国地方③
7	関東地方①(茨城～神奈川)	22	四国地方①
8	関東地方②	23	四国地方②
9	関東地方③	24	四国地方③
10	中部地方①(新潟～愛知)	25	九州地方①(福岡～沖縄)
11	中部地方②	26	九州地方②
12	中部地方③	27	九州地方③
13	中部地方④	28	九州地方④
14	期末テスト	29	期末テスト
15	フィードバック	30	フィードバック
【教科書・参考図書】			
<ul style="list-style-type: none"> ・できるがふえるドリル 都道府県と地図(社会) ・都道府県お出かけ図鑑 			
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<ul style="list-style-type: none"> ・講義スタイル、ディスカッション、グループワークなど日によって形式は変わる。 <p>担当教員は大手上場企業において13年間営業事務、運営業務、研修業務、CSR活動業務を経験。また、日本語学校の講師も務める。多岐にわたる経験を活かし、授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義 / 実習	一般教養 地理歴史	松尾和枝	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<ul style="list-style-type: none"> ・一年次に学んだことを基礎とし、一般教養として地理と歴史をより深く身につける。 ・大学の研究や就職後の業務に役立つ日本について基本的な事象、文化、歴史を学ぶ。 			
【講義概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・47都道府県と日本の地理、歴史、文化を学ぶ。・現代社会にある出来事を結び付けながら知識を深めていく。 ・日本全国を旅するように、その土地の歴史、文化に触れる。 ・各地域の特徴や興味を探り、探究、共有する。 			
授業計画及び学習の内容			
1	オリエンテーション/日本の地域区分 東京1	16	中部地方①
2	関東地方① 東京2	17	中部地方②
3	関東地方② 群馬県 千葉県	18	中部地方③
4	関東地方③ 埼玉県 神奈川県	19	中部地方④
5	関東地方④ 茨城県 栃木県	20	東北地方①
6	近畿地方① 大阪 京都	21	東北地方②
7	近畿地方② 京都 奈良	22	東北地方③
8	近畿地方③ 三重 和歌山	23	四国地方①
9	近畿地方④ 兵庫 滋賀	24	四国地方②
10	北海道①	25	四国地方③
11	北海道②	26	九州地方①
12	中国地方①	27	九州地方②
13	中国地方②	28	九州地方③
14	中国地方③	29	九州地方④
15	確認テスト	30	確認テスト
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義、生徒のプレゼンテーション ディスカッション など日によって形式は変わる。 【教科書・参考図書】・イラストで楽しく覚える47都道府県 英語で伝える日本の文化・観光・世界遺産(参考図書) 担当教員はこれまで全国通訳案内士として通訳の経験豊富であり、地理・歴史に精通している。現在も通訳ガイドとして従事。 これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2023年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	一般教養英語	平松明子	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>一般教養としての英語について、文法や文型を理解し、四技能をバランスよく身につける。 大学の研究や就職後の業務に役立つ基礎を学び、使えるようになる。</p>			
【講義概要】			
<p>大学の研究や就職後の業務を想定して、英語の基本的な文法や文型を学ぶ。 基礎学力の復習として中学から高校までに学ぶ英語の基礎項目を丁寧に復習していき、四技能バランスよく英語を使えるようになることを目標とする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	不定詞1
2	文型の理解1	17	不定詞2
3	文型の理解2	18	不定詞3
4	文型の理解3	19	動名詞1
5	文の種類1	20	動名詞2
6	文の種類2	21	動名詞3
7	文の種類3	22	分詞・分詞構文1
8	時制1	23	分詞・分詞構文2
9	時制2	24	分詞・分詞構文3
10	時制3	25	分詞・分詞構文4
11	時制4	26	関係代名詞1
12	助動詞1	27	関係代名詞2
13	助動詞2	28	関係代名詞3
14	受動態1	29	関係代名詞4
15	受動態2	30	期末テスト
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループワークなどを行う。 担当教員は、東南アジア・中国・ヨーロッパ諸国・米国・南米・中東諸国で自然環境保護及び地域開発プロジェクトにおける実務経験があり、特に環境保護及び先住民族問題については著書もある。</p>			